

改めて日本人の“国際化”を問う

長谷川 三千子氏



千本 倅生氏



中嶋 嶺雄氏



日本人自身がどれだけ知っているのかという点。日本語学会ができてまだ十数年。日本語すら十分に勉強していないのである。貢献論の前に勉強をする必要がある。

長谷川 いまの地球全体が、放っておいても大丈夫なのであれば、我々は何もする必要はない。けれどももし我々の常識で考えて、本当にまずい状況が見えてきたならば、自分なりにできることをしなければならぬ。たとえ南北問題は地球全体にとって緊急の問題である。食っていけないという問題に取り組みを勉強しよう、では間に合わない。

光田 貢献すべきだという考え方には基本的に賛成である。私自身、文部省の留学生課長として一人でも多くの留学生をふやすべく努力してきた。ただ何かをしようとするときは、人の心を知る必要がある。果たして我々の常識が世界の常識であるのか、あるいはア

千本 私は湾岸戦争後の世界、そして二十一世紀も日米関係を基軸にやっていたければならないと考える。それが崩れると、周辺諸国に被害が生じる。ところが日米関係の中に問題が内在している。つまり我々の産業の大部分が情報、通信などに依拠しているにもかかわらず、工業化、情報化において十分な競争能力を備えていない。湾岸戦争で活躍したパトリオットの半導体もほとんどすべて日本製だった。この状況で日米関係をどうやっていくのか。これは最大の課題である。

吉田 プッシュ政権はいま、九〇%に及ぶ支持率に自信を深め、アメリカ主導の新世界秩序の構築に精を出している。しかし私はその新世界秩序づくりには懐疑的である。私は今後の二十一世紀への十年間はア

は大国失格なのではないか。

バルバース なぜ人が出ないかという点、日本の意思決定過程が古いからだと思ふ。サダム・フセイン大統領がペルシャ湾に石油を流したとき、誰もがこれは犯罪だと思った。翌日ノルウェーから、その翌日にはドイツから人が駆け付けた。そのとき日本は何が起きたか—政治家の根回しである。ペルシャ湾がきれいになってからでは意味がない。日本人が誤解されても当然である。

長谷川 バルバースさんの言葉の「貢献」は日本が発展途上国を経済的に援助することは、根本的に異なる問題を含んでいる。つまり日本が軍事的に人を出して「貢献」するということは、日本が再び軍事の主体となるのか、という非常に重大な選択とワンセットになっている。これはコンセンサスの形成の方法にかかわらず大変重大な問題で、これを真正面からつきつけられたら、日本の人的

リカ主導の新世界秩序に対して、差別、不平等などで虐げられた被害者の側の異議申し立てが起きるだろうと見ている。

その上で日本はどうするか。対米協調、追従であるなら、第三世界の異議申し立てをおさえにかかるとは、しかし日本は自由・平等・平和・人権の側に立つべきである。

は明らかである。第三世界の抑圧された人々の尊厳し向きを少しでも良くするため、経済の力を発展途上国

21世紀も日米を基軸に

国連の“再構築”が必要 中嶋

千本 国連は変われるのか、そこに密着して存在している。もし世界が真に日本の国際的貢献を求めるなら、国連の

青木 日米関係を基軸にしたがら、日本とアジアの関係を積極的にもつことは可能だろうか。

中嶋 それは非常に重要な問題である。アメリカにとつて、日本とアジアの間の亀裂が安心にならなければならない。日本がアジア主導で進んでいくとすれば、アメリカのいらだちはもっと大きくなるだろう。

中嶋 日米関係が安定していることで小さい国も安定する。日本だけがハッピーになる道を探すべきではなく、日米関係を安定させ、小さな国も転覆しないよう配慮すべきである。

千本 日本はこれまで、東欧、アジアに対して通信機、コンピュータなどの「物」を売ってきた。しかしそれ以外

れるのか、ということまで含めての言葉なのか。

中嶋 長谷川さんとは根本的に「機は熟していない」という言葉の受け止め方に違いがあるようだ。湾岸戦争で世界はまだ力を有効であるか、となら

命と戦争の世紀と言われる二十世紀でもそれが最後ではないかと思う。これから二十一世紀はそれと違う。二十一世紀はそれを違

た。アメリカがそのような形で力を行使するのは、革命と戦争の世紀と言われる二十世紀でもそれが最後ではないかと思う。これから二十一世紀はそれと違



土野 繁樹氏



吉田 康彦氏



ロジャー・バルバース氏

の有識者を対象に行った調査を見ると、日本に対する信頼度は、ドイツ、イタリアの九一%を筆頭に、オランダ八七%、スペイン八五%、最低のイギリスでも七二%が「信頼できる」と答えている。評判を気にするより、むしろまず日本のスタンスを明確にすることが必要だろう。

吉田 英語のコントロール（貢献）とは国連の分担金を意味する言葉でもある。お金を出す

ら、「日本人には感謝しています」と言われた。彼の島にオーストラリア人、ニュージーランド人、アメリカ人が来ているが、みんな島の生活に口を出さず、口を出さずに、仕事だけをやり、それが彼らの文化を理解しようという思いが感じられる。「人は出すが、口は出さない」というのは、日本の貢献の

竹中 最近話題になっている企業の社会的貢献で、日本の各企業も立派なことをいろいろやっているが、それを口にしたくないためにほとんど自立せず、日本企業は金儲けししたいと誤解されている。IBMには「よき企業市民たれ」というモットーがあり、それを具現化していくシステムが整理されて、どの国にも企業貢献のあり方がわかってもらえる。貢献にあたってはもっとパブリシティを重視すべきだろう。

や文化を守らねばならない。ならば次善の策を講じる必要がある。他のもより信用できるもの一つをつんで連帯を組むのが現実的かも知れない。それが国連にたどりついている。確かに国連では日本はまだ敵国条項の対象になっており、国連自体十分に機能していないのは事実だが、平和に貢献できる材料として

自身でまだ誰も考えたことのない秩序を見だしているかなければならぬ。

青木 湾岸戦争は第二次世界大戦の戦後処理の間違ったところから起きた。戦争が起ったとき、日本の首相は

自身でまだ誰も考えたことのない秩序を見だしているかなければならぬ。

青木 湾岸戦争は第二次世界大戦の戦後処理の間違ったところから起きた。戦争が起ったとき、日本の首相は

これからの世界は軍事的な貢献とは違う形で動いていくだろう。そのときグローバルイニシアチブは何かよく見えるけれども、問題はそれによって、民族の解体・再統合がますます大変になることだ。私は、そこに日本の果たすべき役割があると考えている。

首脳は「ルック・イースト」と言っている。ごく最近では東アジア安全保障条約、東アジア経済連合をつくらうという提案があった。メンバーゲットは日本であるのに、日本はうまく対応していかない。アメリカやヨーロッパでECを刺激しない形でアジアの連合体をつくる時期に来ているのではないかと。私は中

アジア各国へ出向いて説得し、共同戦線を張らねばならなかった。それを背景に世界に発言していくべきだったのである。

長谷川 第三世界をどうして行か、食べられない人たちの援助は、など人道主義だけでは片付かない問題が山積している。どこに学ぶのではなく、日本人

アジア各国へ出向いて説得し、共同戦線を張らねばならなかった。それを背景に世界に発言していくべきだったのである。

学ぶだけでなく見いだし アジアと新しい関係を 青木

主催	産経新聞社
共催	神戸市
後援	外務省 文部省 通商産業省 国際交流基金 神戸商工会議所
協賛	日本アイ・ピー・エム株式会社 西日本旅客鉄道株式会社 I T J 日本国際通信
協力	株式会社 株式会社 長谷川 エコ ポレー
制作	株式会社 株式会社 株式会社
印刷	株式会社
校閲	株式会社
発行	株式会社